



『生きていることわざ』

船橋市議会議員

神田 廣栄 (かんだひろえい) 市議会報告

【事務所】 船橋市前原西8-24-8 ☎490-3333 FAX 465-7117
Eメール hiroei@muc.biglobe.ne.jp
ホームページ http://www.hiroei.jp

四面楚歌 (しめんそか) ・ 泰然自若 (たいぜんじじやく) ・ 火中の栗を拾う

- 【四面楚歌】 ◇ 周囲が敵や反対者ばかりで、味方はなく、全く孤立していること。
・ 四方から聞こえるのは楚の地方の歌声ばかり、の意。中国の戦国時代、楚の項羽が、垓下で漢の高祖の軍に包囲された時の故事から。
- 【泰然自若】 ◇ 落ち着いていて、ものに動じない様子のこと。
・ 「泰然」「自若」ともに、慌てず悠然としている様子のこと。
- 【火中の栗を拾う】 ◇ 他人の利益のために、あえて危険なことをするたとえ。
・ 猿におだてられた猫が、いろりの中の栗を拾おうとして大やけどをしたという、フランスの詩人ラ・フォンテーヌの「寓話」の中のことば。

日本が駄目になる

野田内閣の支持率が一向に回復しません。歴代内閣がなし得なかった日本の将来を見据えて、正に泥まみれになって、或いは『四面楚歌』の国会の中を身を捨てる覚悟でプレず施政をしているのに、理解してくれているのは良識派といわれる一部の方々です。

民主党を出ていった一部の議員は、まもなく実施される総選挙において自分だけは当選できるようにと、本心を隠し、大衆受けするために、野田内閣が推し進める、人気はないが今後の日本が生き残るための幾多の政策を批判し、いい子振っています。こんな人達が再び当選してきても日本は良くなるどころか、泥沼に入ってしまう。

党内にいても、自分の愚かさに気がつかず、野田内閣批判ばかりしている元首相は、とっとと出ていくことが、日本のためになることを知るべきです。他の党も党利党略に明け暮れ、失った政権を取り戻すことしか考えていません。



今の政権は、右から左の寄り合い所帯がゆえに、長く続いた自民政権の全てを否定することから始まりました。アメリカのすること、官僚のすること、みんな悪である、という誤った思想からスタートしたのです。

さらに今、大衆迎合の発言をしている輩が主体で作った、非現実的で中身の無い夢と理想だけで、政権を獲るために作成したマニフェストなるも

のは違反・廃止して当然です。

野田首相は、自分の延命は考えていない筈です。日本のためになるなら、政権を失うことも民主党の再分裂も厭(かま)わないと思っておられると思います。それが国会議員としての使命であると考えておられる筈です。だからこそ『火中の栗を拾う』首相となったのです。『泰然自若』として日本国を守ってください。現在、野田総理大臣を超える総理大臣はいません。



泰然自若と
日本を考える

さて、船橋市議会はどうか。

● 議会改革を訴え、過去先輩議員が積み上げてきたものをないがしろにして、試してみようという「試行」の名のもと、「なんでもあり」の方向に向かっています。

もちろん、改革すること自体を否定するものではありませんが、改革すべきは前近代的なことや不都合なことであるはずはです。

改革改革改革

「議員のありかた検討委員会」「議会運営委員会」「広報委員会」などで改革を進めています。



私は「議員のありかた検討委員会」「議会運営委員会」の委員になっています。前者では、政務調査費、議員定数、議会事務局の機能強化などについて検討しています。以下に主張している主なことを羅列します。

《政務調査費》◇現在は使途基準の判断は議員個人に任せているが、あいまい過ぎるので議会として基準を明確にすべき。

◇視察は目的や相手方の詳細などを記入した報告書を添付すべき。

《議員定数》◇10人削減し40人とすべき。年間経費が1億2千万円削減でき、子育て支援費などに充てられる。

後者では、質問方法、行政側に反問権の付与、予算・決算委員会の常任委員会化などが話し合われています。

また、5つある常任委員会のなかで、ある委員会は一部の議員が主導して毎月何回も委員会を開催し、偏った考え方による意見により各方面から反発を受けているという話も聞こえてきます。

委員長の仕事は大所高所から判断し、委員の意見を聴取し、議事を整理し的確なまとめをすることが任務の筈ですが、そうでない委員長がいることは事実であり、委員長権限を逸脱し独善的であり委員長たる資格はないと判断せざるを得ません。

委員長って偉いんだぞ



今、船橋市議会は良くなるのか、その反対になるのかの瀬戸際です。国会と同様に理性のある議員の踏ん張りどころです。